

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年9月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104746
法人名	医療法人 愛人会
事業所名	シルバープラザ グループホーム愛
所在地	鹿児島市谷山中央1丁目4088-14 (電話) 099-801-6470
自己評価作成日	平成30年7月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	H30年8月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

谷山地域が区画調整区域の為ここ数年は地域の方の移動や建物の取り壊し、谷山駅の高架橋工事等行われ谷山駅前もがらりと変わりました。私共グループホームも平成30年1月11日川島院新館建設と共に移り住む事となりました。1階から4階が川島病院で5階にグループホーム愛が引越し、新居を構えました。全てが広くゆったりとした雰囲気の中で生活する様になり、ご利用者様もゆとりが出来たのか明るくお元気になってくれました。近隣の道路状況も変化し、戸惑うこともありましたが、現在御利用者様・御家族様にも喜んで頂いています。今後は地域も充実していくことでしょうし、地域の皆様との交流も出来ていくと思われまます。まだまだこれからのところですが、谷山地域の活性化に交わって行けたらと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ ホームは、谷山地区の中心部の広い敷地に、法人母体の協力医療機関や在宅福祉事業所等があるビルの5階に本年1月に移設しており、眼下に谷山駅や街並みが、また、遠くには山並みや桜島等が望め、平穏に生活できる環境が整備されている。法人全体で情報の共有が図られ、災害や緊急時の協力体制は十分に構築されており、防災訓練や職員研修等は合同で実施している。区画整理の地区で周辺の空地に民家や商店が建設される予定で、自治会活動もこれからの取り組みとのことであるが、管理者及び職員は、谷山ふるさとまつりの見学や、ボランティアの受け入れ、住民からの相談に助言する等、工夫しながら地域との交流に積極的に取り組んでいる。

○ 管理者及び職員は、地域密着型サービスの意義をふまえた理念・目標に沿って、利用者の誇りや尊厳を大切にしながら思いや意向を把握し、安全を確保しながら、その人らしい生きがいのある生活の支援に努めている。起床や食事、入浴等の時間は、利用者の習慣を尊重して柔軟に支援し、外出や余暇時間の趣味、嗜好への取り組みは、家族と協力して支援に取り組んでいる。

○ 管理者は、日頃の職員とのコミュニケーションの中で信頼関係や協力体制の構築に努めており、意向や要望等を把握して研修の実施やケアに関する助言・指導に取り組んで、業務の改善やサービスの向上を図っている。勤務シフトの作成や外部研修の受講には、可能な限り本人の意向を反映するなど、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	敬天愛人から、人を愛し、人を慈しみ、人を敬う心を理念に掲げ職員一同となり実践につなげています。	ホームの運営理念と目標を玄関及び事務所に掲示し、ユニット会議等で唱和して意義の共有を図っている。日々のケアの中や申し送り、月1回開催のユニット会議、職員全体会議等でケアの振り返りや意見交換を行って、理念に沿った支援の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	谷山地域にグループホーム11事業者あります。今年度より11事業所が集まり情報交換等行いお互いに助け合い運営して行こうと努力している。又他事業所との交流も行っている。	地区の区画整理により、本年1月に移設したホームで、周辺は空地が多く、今後住宅や商店等が建築される予定である。このような環境の中で、「谷山ふるさと祭り」の見学や家族及び友人知人の来訪、ボランティア（踊り、楽器演奏）、高校生の実習等を積極的に受け入れ、日頃の散歩や買い物、通院時に地域の人々と会話する等、工夫しながら可能な限り地域との交流を図っている。また、地域住民から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアに関する相談等にも丁寧に対応している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	研修会場を提供し、地域の高齢者を地域全体で支援して行こうと協力し合い、抱え込みの無いクリーンな支援を皆で取り組んでいくよう話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>包括センターや御家族、関係事業所等呼びかけ集まって頂きサービスの向上に向け評価を頂いている。</p>	<p>会議は家族、民生委員、地域包括支援センター職員等が参加して定期的開催しており、毎回数人の家族の出席が得られ熱心に意見等が交わされている。ホームの現況やヒヤリハット事例等の報告を行い、委員からは利用者のケアに関する質問や意見、地域の情報等が出されている。会議の内容は議事録で共有し、出された意見や要望は職員会議等で検討してサービスの向上に反映させている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>常に連絡を取り合いお互いの困ったことや、協力できることを相談しながら進めている。</p>	<p>地域包括支援センター職員には、運営推進会議に出席してもらうと共に、市担当者とは介護保険更新や各種報告書の提出、ホームの運営や利用者の状況に関わる相談等を行って、助言・指導を頂くなど協力関係を築いている。市及び市社協主催の会合や研修会に積極的に参加して、行政職員や他施設職員と意見交換等を行ってサービスの向上に活かしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>今回介護保険の改正で、身体拘束について、運営推進会議で、参加者全員に書面で配布し又会議の中で口頭で身体拘束についての取り組みをお話ししている。</p>	<p>身体拘束をしないケアの実践については、身体拘束委員会が主となって毎月、研修や意見交換を実施して、共通の認識を図っている。利用者の尊厳やプライバシーを大切にしたい言葉づかいやケアの実践に日々努めており、不適切なケアに対しては、その場で職員間で注意し合って改善に取り組んでいる。玄関等の施錠は行わず、外出したがる利用者には散歩の同行や寄り添い等で安全を確保するなど、拘束のない自由な暮らしの支援に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議や全体会議で高齢者虐待をしない通達や、グレーゾーンについての注意や禁止の話をしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	成年後見人や権利擁護について学ぶ機会や対象者についての対応について話を通して話している。権利擁護の利用者の対応も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は本人・家族と十分に面談し説明を行い、納得して頂いてから入所して頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設け投函できるようにしており、また直接管理者・諸君へ話が出来体制を整えている。	利用開始時に利用者や家族から意見・要望等を聞き取り、入居後は利用者の意見や思いを日常の会話や表情、仕草等から把握している。また、家族からは面会や運営推進会議、イベント時の対話、意見箱の設置等で気軽に意見を出して貰い、職員全員で話し合って改善に取り組んでいる。検討の結果は、本人や家族にも説明して理解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議やユニット会議でそれぞれに意見が言い合える環境を準備し誰もが自由に発表出来る体制を作っている。	管理者は日頃より職員とのコミュニケーションを大切に、協力及び信頼関係の構築に努めており、業務の中や職員会議、ユニット会議、個人面談等で業務に関する意見や個人的な事情等を把握し、協議して業務の改善やサービス向上に繋げている。人事異動や勤務シフト、外部研修の参加等は可能な限り職員の希望を反映させ、また、スキルアップにも積極的に取り組むなど等、働きやすい職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	介護職員一人一人が意識を持ち資格取得に向け向上出来るように努力している。又毎年有資格者が出ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修の機会があれば参加し、施設内でも技術向上や病気の周知等学びながらお互いに教えながら専門性の習得にも努めている。(看護師・理学療法士等からの指導)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流や、勉強会に参加し、持ち帰った後ユニット会議等で皆で情報の交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所以来時はケアマネが十分に聞き取りアセスメントしその方のニーズに添ったプランを作成し支援しながら見直しを行っている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用者・その家族に聞き取りホームでの生活をどのようにしていくかを傾聴し満足の行く支援がなされているかを見直しながら毎月家族に報告を行っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人がどんな暮らしを望んでいるか、家族がどんな暮らしをしてみたいかを聞き取り、望む生活を支援出来るように職員全員で周知する。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>自立支援のもと本人に出来るところは尊重し行って頂き出来ない部分を支援し、出来るようになる支援を行う。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が家族の面会を楽しみに会える喜びを、語り合える時間を提供しお互いの意思の疎通を図り楽しみを持てるように支援していく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人・近隣のなじみといつでも会え、外出したり外泊できる自由なホームで周りとの交流が継続できるよう支援している。	入所前の生活状況を基に、利用者の馴染みの人や場の情報を「アセスメントシート」で共有している。家族や友人の来訪時にはゆっくり過ごせるように配慮し、電話や手紙の取り次ぎに努め、本人の希望に沿って散歩や買い物、一時帰宅、ドライブ等を家族と協力して支援している。遠方の家族には、毎月発行の「愛だより」や担当職員による利用者の状況を伝える便りを送付するなど、馴染みの人や場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活を共にする仲間としてお互いが思いやり助け合い心配りが出来る関係を作り、園内外で楽しみを持って集える場を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・退所・他施設入所になってもご家族とも連絡を取り面会に伺い、安心できる関係の継続を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人・家族の意向を聞き取り本人の意向に沿った援助を心掛けている。部屋も個人の嗜好で生活リズムも本人の生活に合わせた支援を行う様に職員全体で周知し支援している。	利用者の思いや意向を、日頃の関わりの中で理解に努め、申し送りやユニット会議等で共有して最善のケアに取り組んでいる。その人らしい生活が過ごせるように、習慣を尊重し、日々の衣服の選択や趣味（手芸や読書、麻雀等）、外出、レクリエーション等の取り組みを、可能な限り希望に添って支援している。また、ルールを定めて、喫煙や飲酒等も柔軟に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・友人・知人から聞き取った情報を元に本人の暮らしやすい状況づくりを行っている。面会も拒否がない以上は何時でも受け入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれできることを把握し個人で楽しむことを支援している絵を描かれたり、塗り絵をされたり折り紙や間違い探し、輪投げ、ボール遊び等その方が楽しまれ好まれる事の提供が出来る		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、介護者、計画作成担当者、管理者を含め担当者会議を開き利用者の意向を確認、把握するよう努めている。変化があれば希望に沿えるように対応している。	本人・家族の想いや主治医の助言等を把握し、モニタリングやユニット会議時の意見を基に、具体的で解りやすい介護計画を作成している。ケアの状況は「申し送りノート」「業務日誌」「支援記録」等で共有し、本人主体のケアの実践に努めている。定期的な見直しに加え、状態の変化時には計画の修正等を行って、実状に沿った支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に個人台帳を持ち支援記録を作成している。日々の個人に対するケアは記録に残し、日勤者から夜勤者へ申し送りを行い引き継ぎに漏れが無いように確認し、ケアに行かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに合わせてサービスが提供できるように必要な器具・道具を準備し、援助内容、方法も柔軟に対応出来るように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの近隣には時期折々の花を愛でる環境があり、美術館、資料館、催し会場等、本人が望まれる絵画や歴史観、音楽鑑賞にも同行し楽しみを持って頂いている。春は桜・夏はソーメン流し等利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の意向を重視し、かかりつけ医を受診している。かかりつけ医の無い方、希望者にはホームの協力医と連携を図り利用して頂いている。専門疾患は情報提供を行い専門医の受診を行っている。	利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受診を支援している。法人母体の協力医療機関が階下であり、主治医による定期的な訪問診療や訪問看護が実施されている。専門医の受診は、家族と協力して支援しており、病状や受診結果等は家族にも報告する等、密に連携を図っている。病状の変化や緊急時の対応など、医療機関との連携体制も構築され、利用者、家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の院長が理事長であることから医療との連携は非常にうまくいっている 2, 3日に1度医療連携病院から看護師が訪問し健康チェックを行っている。月2回は主治医の往診も出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は家族に負担軽減と利用者様の様子伺いを兼ね洗濯物取り、必要品の補充に、早出職員が病院に顔をだし入院中の不安軽減に努めている。担当看護師より状態の聞き取りを行い支援記録に落としている。ご家族にも状態報告が出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その時期が来たら、家族の意向を再確認し看取り介護に関する説明・同意書を出している。又健康状態の急変時は主治医から家族へ説明し、見取りの同意書を得ている。	重度化や終末期の対応は「重度化した場合における対応に係る指針」を整備しており、入所時に本人や家族に説明して理解を得ている。利用者が重度化した時点で、主治医から病状が説明され、職員や関係者、家族は十分な話し合いを行って可能な限り希望に添った支援を、主治医や家族と協力して取り組んでおり、これまで1件の看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員に普通救命講習を受講させている。定期的に看護師からの指導ホーム内の勉強会で学習している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間・夜間の防火・避難訓練・消火訓練を他事業所とも連携を取り行っている。災害への意識を高める為、災害対策の対応、他消防職員との質疑応答を行っている。	消防署の協力を得て、年2回夜間も含む火災や風水害、地震を想定した避難訓練を、階下の医療機関や在宅介護事業所と協力して実施し、災害に関する講話や消火器等の取扱い等の研修も実施している。日頃から避難経路の確認や報道された災害事例を基に意見交換するなど、災害対策の認識を深めている。スプリンクラーや防火壁、救助袋、自動通報装置等の設置及び連絡網が整備され、災害時の食料・飲料水の備蓄、ラジオ、卓上コンロ等も備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを大事に対応している。職員の接遇マナーのレベルアップに向けユニット会議で話し合っている。排泄チェック表・個人記録等は目につかない様に配慮している	プライバシーの確保や個人情報保護については、安全管理委員会が主となって計画的な研修の実施で周知を図り、常に尊厳に配慮したケアの実践に努めている。特に居室への入室や排泄・入浴・更衣等のケアに際しては、傷つける言葉や対応を行わないように配慮しており、居室やトイレ、浴室等はプライバシーが確保された構造になっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日居室に伺い声掛けを行い、その日の意向や声を聴き意思の疎通を図りながら、利用者が自己決定できる環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のマニュアルどおりではなく利用者がそれぞれ、入浴、食事等も希望が言え、余裕を持って好きな時間に利用できるようにしている。面会があった時は面会時間を大切に配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	更衣は本人の好みで着て頂いている。職員は季節や気温に気づかう程度でアドバイスしており本人の意思を優先している。理・美容は適時に要望に対応して職員が行っている。	/		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好・アレルギー制限・咀嚼の程度に合わせた食事を提供している。食事時は利用者同士がコミュニケーションをとれる配置にしている。	利用者の好みや形態、栄養バランス、疾病に伴う摂取制限、季節感等に配慮した食事の提供に努めており、メイン料理は法人母体の医療機関が調理している。行事食（おせち、誕生会、敬老会等）やおやつ等はホームで利用者と楽しみながら調理しており、食事の準備や後片付け等も一緒に行っている。レストランでの外食、弁当持参の花見、家族との会食、ソーメン流し等、食事が楽しみなものになるよう工夫し、利用者毎の摂取量を把握している。口腔ケアもプランに沿って適切に支援している。	/	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量・補水量を毎日記録し、状態観察を行っている。食欲低下、補水減少は高齢者には危険を及ぼすのでこまめな水分補給や塩分補給を行い変化があれば直ぐに主治医へ連絡し指示を仰いでいる。OSIや栄養補助食品の準備も出来ている。	/		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、就床前に口腔ケアを行って頂き。残存機能を最大限に活用している。適時に職員が口腔内の確認を行っている毎週金曜日に訪問歯科に来て頂き受診・指導を頂いている。	/		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツは基本本人の要望に沿っている。一人一人排泄記録を取り、トイレの誘導・声掛けを行い最小限のリハパン・パットの使用を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援しており、食事の摂取状況や水分補給、運動量等も把握しながら便秘の予防にも取り組んでいる。支援に際しては、羞恥心や不安感の軽減に配慮し、状態に応じて介護用品の工夫や支援方法等を介護計画に反映させて改善に取り組んでおり、リハビリパンツから布パンツへの変更や失禁の減少等の改善が見られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全職員認知症高齢者に及ぼす、便秘の影響を学習、理解している。食事・水分・運動を取り入れ便秘にならない様に、予防に努めている。医療機関とも相談しながら排泄を促すようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者主体の入浴を行っている。毎日の方・入浴希望時・定期的な方等、清潔・安全を基本に入浴介助も行っている。	利用者の健康状態を把握し、足浴や清拭も含め隔日の入浴を基本としているが、排泄の失敗等には即時に清拭や入浴で清潔を保っている。予定外の入浴や時間、温度等は希望に添って柔軟に対応し、ゆっくりと入浴を楽しめるように配慮している。入浴を渋る利用者には、時間の変更や声掛け等を工夫して本人の意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はよく休めるように日中体を動かし、体操や運動、歌を歌う、笑う等刺激を与えていることで夜間は良眠されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	御薬を準備する時お薬説明書を見ながら1つ1つチェックを行い、漏れが無いように服薬後も空袋の確認を2人で行う等飲んで頂いた後の口腔内の確認も行い事故の無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人出来る事を本人の意思のもとに行って頂く、お茶碗拭き・御盆拭き・テーブル拭き等リハビリの一端として行って下さる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近隣にある施設や、公園に出かけ季節に合った花見や外出援助を行っている。個人対応も希望を聞き入れ職員、家族と食事や買い物、見物に出かけている。ご家族との外出も依頼があれば随時外出して頂いている。	日常の関わりの中で利用者の外出への意向を把握し、希望に沿って散歩や買い物、通院、一時帰宅、墓参等の外出を個別の支援を含め、家族と協力して取り組んでいる。また、全員での外出を毎月計画し、季節の花見や外食、水族館等へ、リフト車も活用して出かけて、利用者の気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本預り金は0円である。必要な物品は担当職員が購入伺いを管理者へ提出、管理者が購入、事務所へ明細を提出。明細と領収書を添えて家族に送封し、Kネットで引き落とししている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を所持している方もおられ、ホームの電話も自由に会話できるようになっている。外部からの電話も職員が介助を行い、本人が話せる状況を提供している。手紙等も書かれたものを職員が投函している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有部分は清潔に保たれ、整理整頓され誰もが自由に使えるようにしている。時々席替えを行い利用者同士のコミュニケーションが取れるように、また顔なじみになり親しみを持って頂ける様に配慮している。</p>	<p>ビルの5階に設置されており、眼下に街並み、遠くに桜島等が望める。ホーム全体がベージュ色を基調として明るく余裕のある広さが確保され、また、ベランダには菜園も設けられ多種の草花や野菜を育てている。リビングの一角に対面式キッチンが設けられ、テーブルセットやテレビ等が利用者の動線や利便性を考慮して配置され、随所に利用者の作品等が飾られて和やかで落ち着いた雰囲気となっている。清掃や整頓、空調、異臭、衛生面等に細かに配慮して、気持ちよく過ごせる環境整備に取り組んでいる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>皆が集まる場所ではそれぞれに、折り紙、ぬり絵、読書等個々に楽しみながらゆったりした時間をすごして頂ける様にしている。</p>	あ	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>出来るだけ自宅にいた時の雰囲気をだし、落ち着いた生活が送れるように支援している。食器や家具は使い慣れたものを持参して頂き使用している。</p>	<p>フローリング仕様の居室は、余裕のある広さで明るく落ち着いた雰囲気、エアコン、ベッドが備えられている。利用者の心身の状況に配慮しながら整理整頓や清掃の支援に努め、安全で快適な生活の維持に取り組んでいる。利用者は使い慣れた寝具やテレビ、机、仏壇、家族写真、小物等を自由に持ち込み、また、自身の作品も飾って、その人らしい和やかで居心地の良い居室となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者一人一人出来る事、好きな事が異なることから本人の医師確認を行い、できる事、好きな事を楽しみながら行って頂いている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない